

岩倉北の ボーダレススクール構想

公教育・公立学校のリソースと強みを生かした
全方位型教育システムの構築

KYOTO×教育DXスクール

京都市立岩倉北小学校
校長 三浦 清孝

京都市立岩倉北小学校
校是

自走自在

自走自在する子ども像



JUST DO IT
やっちゃん
楽しむ
学ぶ
知る
知之者不知好之者 好之者不知樂之者



自走自在する学校「ボーダレススクール」

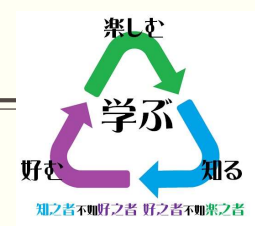
「自走自在」とは

自走とは、

- ①自分で考え
- ②自分で決め
- ③自分で行動し
- ④自分で振り返る


という一連の自立した行動

垣根をなくし、可能性を広げる
KYOTO×教育DXスクール




自在とは、

常に自分をもって、また、偏見や垣根なしに自分事として考えるという自覚的な意識



○自分をもつが自分勝手ではない
○他者を意識するが自分を失わない



岩倉北のボーダレススクールのイメージ

「Borderless（ボーダレス）」と「No Border（ノーボーダー）」の違いは…

No Borderとは、

学校の枠組みやシステムがない状況

そもそも、授業も、学年も、学級も、教育課程も、**すべてがない**状況。

学びの中心に児童がいるが、学校の枠組みやシステムがないので、**児童任せ**の学びとなる

Borderlessとは、

学校の枠組みやシステムはあるが、それぞれの**境界がない**状況

授業も、学年も、学級も、教育課程もすべて**がある**が、その**境界がない**状況。

学びの中心に児童がいて、学校の枠組みやシステムを**児童の状況に最適化**して、**児童が主体的に選択し、学ぶ**ことができる



岩倉北のボーダレススクールのイメージ

「Borderless（ボーダレス）」と「No Border（ノーボーダー）」の違いは…

No Borderの考え方

学校に入る階段の段差が気になれば、**階段を壊して、全員がエレベーター**で入ればいい。個別対応ではなく、全員に同じ支援を行う

東の入口しかなくて困っているのであれば、**入口をなくせばいい**。

学ぶことができれば、**学校は必要はない**。

Borderlessの考え方

学校に入る階段の段差が大きすぎれば、**段差を小さくしたり、スロープを設置**したりして、**登りやすくして、誰もが学校**に入ることができるようにする。

東の入口しかなくて困っているのであれば、西・北・南の入口や大きな入口をつくる。

学校があり、誰もが学ぶための**境界はつ**くらない。



岩倉北のボーダレススクールのイメージ

「Borderless（ボーダレス）」と「No Border（ノーボーダー）」の違いは…

No Borderの学び

登校が難しければ、**登校しなくていい。**

5年生の算数が難しければ、**算数をしなくていい。**

学ぶことができれば、**学校は必要はない。**

児童を中心に、**学びに境界はないけど、学校の枠組みもない。**じゃあ、どうするの？

Borderlessの学校

登校が難しければ、**フレックス登校、母子登校、保健室登校、別室登校、放課後登校、オンライン登校、チャット授業、もちろん登校しなくていいけど、登校については、児童が自分が決める。**

5年生の算数が難しければ、**4年生の算数をしてもいいし、3年生、2年生、1年生の算数でもいい、算数をしなくてもいいけど、それも自分がきめる。**

児童を中心に、**学校の枠組みはあるけど、学びに境界はない。**



岩倉北のボーダレススクールのイメージ

「Borderless（ボーダレス）」と「No Border（ノーボーダー）」の違いは…

Borderlessの学校では、

学校の枠組み・システムこそが、公教育・公立学校の

リソース・強み

No Border（ノーボーダー）・Free（フリー）な学校では、その学校と教職員のリソースと強みで児童を育てることに…

公教育・公立学校では、学校だけでなく地域と社会で児童を育てる。

だからこそ、岩倉北は、**Borderless（ボーダレス）スクール**



岩倉北のボーダレススクールの可能性

学校のボーダー（垣根）と、ボーダレススクール（垣根なし）の可能性

登 校…チャイムまでに登校

フレックス登校、母子登校、保健室登校、別室登校、放課後登校、
オンライン登校

授 業…教室で受講

オンライン、別室、保健室、チャット（SNS）、動画視聴、ロイロノート
Teams

学 年…年齢別学年

チーム担任制、ブロック制、学年解体、縦割り活動

学 級…学年内の学級編成

チーム担任制、学び方別、興味・関心別、月齢別、縦割り活動

時 間 割…学年・学級別時間割

学習内容別時間割、興味・関心別時間割、週軸度別時間割、個別時間割



岩倉北のボーダレススクールの可能性

学校のボーダーと、ボーダレススクールの可能性

学級担任…固定的な学級担任

チーム担任制、学年担任制、複数担任制

学校行事…学校が主体

児童主体、内容を児童と決める、最後まで話し合う、スローガンの共有

委員会活動…学校が主体

児童主体、委員会活動のリセット、児童が委員会を設立、完全希望制、
転職・兼業・新規あり、Teamsやロイロノートの活用

職 員 室…管理職による、危機管理、学校運営、個業制、働き方改革

教職員による、校是「自走自在」の共有、学年主任会、チーム担任制
好きなことをする・人のためにする・楽しんでするの徹底 働きがい



岩倉北のボーダレススクールの可能性

学校のボーダーと、ボーダレススクールの可能性

KYOTO×教育DXビジョンに示されている

③誰一人取り残さない、個に応じた指導・支援の充実

を目指す。今年度は「不登校」という言葉で登校を求めることを前提とせず、

- デジタルならではの強み
- 自分らしい学びを実現する

ことをねらいとして、**KYOTO×教育DXビジョン**の活用もと、**登校や教室での授業を前提としない学校（授業）づくり**をすすめる。GIGAスクールを駆使し、習熟度や学びのペース、興味・関心に合わせて、一人一人の学習計画をかなえる場として、**KYOTO×教育DXスクール**の実現をめざし、積極的に取り組みをすすめたい。



岩倉北のボーダレススクールの実際①

6年のA児 その1 **KYOTO×教育DXスクールの取組**

- ・プロフィール
2年生4月から転勤のため岐阜県から転入。転入時から場面緘黙で、家族以外とは一切話さない。1年時（岐阜県）は、母子登校が認められずに、ほぼ**全休**
- 令和元年
転入当初は、**15分の母子登校**で大好きなウサギにあいさつをして帰るところから始めた。その後、母子登校から母子で教室学習に少しずつ入るようになった。
- 令和2年
母子登校、母子での教室学習を続けた。
ICT環境が整い、教育委員会のバックアップのもと、1日1時間程度の登校と、家庭での**オンライン授業のハイブリッド型**で学びをすすめることができた。



岩倉北のボーダレススクールの実際①

6年のA児 その2 **KYOTO×教育DXスクールの取組**

- 令和3年
母子登校、母子での教室学習の継続。**GIGA端末**を積極的に活用し、1日数時間の教室での授業、**チャットでの発言**ができる**双方向のオンライン授業**をすすめた。オンライン授業の際も、当該児童の**GIGA端末**がグループ活動に当たり前に参加し、チャットでの発言を教室の児童が取り上げて話し合いを続ける等の教室と**オンラインのボーダレスな授業**の姿が見られた。
- 令和4年度
母子登校、母子での教室学習を継続するが、母親は教室には入らない。A児が主体的に登校とオンライン授業を**計画**している。チャットでの発言や教室でのタブレット等を使ったテキストデータでの発言等、音声での発言はないが、**ハイブリッド型を超えた多様で主体的な学び**を深めている。
- 令和5年度
令和4年度に引き続き、母子登校だが母は送迎のみ。対面とオンラインのハイブリッド型を自分で計画し、**KYOTO×教育DXビジョンスクール**として取組をすすめている。



岩倉北のボーダレススクールの実際②

育成学級の取組

- プロフィール
発達育成学級6名（6年3名、5年1名、1年2名）と、情緒育成学級2名（1年2名）が在籍。6年3名は、4年生からの入級。
A児は、脳の壊死のために身体機能的な障害と発達の障害の重複。
B児は、学習の理解が難しく、生活年齢との差が大きい。
C児は、3年生まで他校で全休、転入を機会に、学習の大きな遅れを育成学級に入級し、支援することとした。
また、1年生のA・B・C児は、普通学級ではなく育成学級スタートを希望しての入級。B児は、入学前に転居してまで本校での入級を希望。
- 個別の時間割 **KYOTO×教育DXスクールの取組**
6年生の3人は、**それぞれで異なる時間割**としている。
「交流学級」での授業も、音楽や図工、体育といった教科を**固定しない**。
全教科を対象に、学習内容に応じて、交流学級か育成学級か、どこで学ぶことがよいのかを児童と育成学級担任、チーム担任が相談し、保護者の理解も得て、**個別の時間割編成**をしている。1年生の3名についても同様の時間割編成を行う予定。



岩倉北のボーダレススクールの実際③

育成学級の取組

- 育成学級の教育課程 **KYOTO×教育DXスクールの取組**
育成学級児童として、個別に計画した教育課程に準拠した形での時間割だが、4月当初に計画した教育課程を**遵守することではなく**、一人一人の児童の「今」を適切にとらえ、育成学級の**強み**である児童の発達状況に合わせた個別の教育課程の編成を**適宜**すすめている。
- ボーダレスだが、育成学級児童の実態や入級の際の保護者との確認事項として、教育課程の**半数以上を交流学級で行うことはない**。また、育成学級の独自の取組も積極的にすすめており、**個別最適化した教育課程と学級集団としての機能の両立**を図っている。



岩倉北のボーダレススクールの実際④

6年A児
前頁で事例報告

6年B児
1年時より不登校傾向、4年途中より全休。放課後の担任との関係は良好。様々なアプローチを続けているがこれまで**前向きな応答はなかった**。しかしながら、昨年度9月から本人希望で**フリースクールへ入学**。毎日通学している。フリースクールとの連携と定期的家庭訪問を継続中。

5年A児 **KYOTO×教育DXスクールの取組**
1年時より不登校傾向。週1回程度の母子登校と1時間程度の別室学習。学力不振（九九ができない）のため、昨年度2学期より、**特性に対応した教育課程を編成するために**、登校時に個別の対応として、**育成学級**で登校中。入級はできていない。

5年B児
令和2年度のコロナ休校後から、父親の持病の関係で**他者との接触を一切断つ**。**完全オンライン学習**に切り替え、学校と同様の**教育課程をオンラインで同時受講**、**在宅テスト**、**在宅図画工作等**の対応をすすめていた。昨年度末から登校中



岩倉北のボーダレススクールの実際⑤

4年A児 **KYOTO×教育DXスクールの取組**

1年生途中から、周囲の児童が指導されているのが辛いというHSPの症状を訴え、**在校時間を限定したり、母子登校を行ったりしている。現在も、フレックス母子登校と時間限定早退で対応中。**学力が高く、探究心にあふれているので家庭学習の状況は良好。

3年A児

入学時は自閉的傾向が強く、一斉授業を受けることができなかった。2年生後半から一斉授業を受けることができるようになってきた。独自の教育課程は不要だが、個別の対応が必要な児童

2年A児

2学期より不登校傾向、母子登校、フレックス登校、放課後登校
教室での授業、**別室受講、オンライン授業、時間限定授業として早退あり**を継続中



岩倉北のボーダレススクールの実際⑥ 卒業生編

A児

1年時より不登校傾向、**オンライン登校、保健室登校、別室登校、放課後登校、教室での授業、保健室受講、別室受講、オンライン授業**を継続した。中学校では登校中。

B児

4年後半より、情緒面で不安定。フリースクールに週2回登校。残りの3回を、通常登校、**フレックス登校、保健室登校、別室登校、教室での授業、保健室受講、別室受講、オンライン授業**を実施した。洛風中を希望したが、本人が辞退し、中学校へ進学。

C児

6年途中から転入。6月後半に難病を発症。通常登校、**オンライン登校、保健室登校、放課後登校、教室での授業、保健室受講、別室受講、オンライン授業**を実施した。中学校では通常登校中。

D児

昨年度10月より、逗子市から転入。母親の虐待による精神的不安で不登校。父と弟と一緒に転居。様々なアプローチを試みたが反応なし。オンライン授業への**参加等の反応もないが、週2回程度、家庭訪問で学級担当と会話を心待ちにしていた。**※中学校では登校を実施した。中学校では登校中。

E児

入学前から、重度のアトピー性皮膚炎のために就寝時刻が一定でなく、起床時刻が遅くなる日があり、登校時刻に間に合わない。1年時から、遅れていいので登校するように、学年で受け入れるようになってきた。6年間**フレックス登校**だったが、中学校へは遅刻なしで行っている。



岩倉北の

ボーダレススクール構想



公教育・公立学校のリソースと強みを生かした
全方位型教育システムの構築
KYOTO×教育DXスクール

京都市立岩倉北小学校
校長 三浦 清孝

